

事務連絡  
令和4年12月16日

地区薬剤師会 ご担当者様

公益社団法人 東京都薬剤師会

東京都にある薬局を対象とした調査への協力依頼について（周知方依頼）

平素より、本会会務に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて今般、東京薬科大学 薬学部 社会薬学研究室より別紙のとおり、東京都にある薬局を対象とした調査への協力依頼がありました。

東京薬科大学では、東京都にある薬局（t-薬局いんふおかから無作為化抽出）を対象とした3つの調査（調査1～3）及び全国の薬局を対象とした1つの調査（調査4）を今年度中に順次実施しているところですが、2022年11月半ばから開始した「調査1：地域薬局における漢方薬等の利活用に関する調査」の回収率が思わしくないことから、本会に周知方依頼がありました。

つきましては、会務ご繁多な折、誠に恐縮ではございますが、調査依頼のあった貴会会員薬局の皆様にはアンケートにご回答いただきますよう周知をよろしくお願い申し上げます。

# 【別紙】

令和4年12月13日

公益社団法人東京都薬剤師会  
永田 泰造 会長 殿

東京薬科大学 薬学部 社会薬学研究室  
教授 北垣邦彦



## 東京都にある薬局を対象として調査への協力依頼について

拝啓

時下、ご清栄の事とお慶び申し上げます。

さて、これから薬局に対する厚生労働省の基本的な考え方として2015年に示された「患者のための薬局ビジョン」では、薬局には地域医療の中核的な役割を担うことが期待されています。そのためには、薬局では、これまで以上に患者の服薬情報の一元的・継続的な把握と薬学的管理・指導、地域医療機関との連携、セルフメディケーションの推進などが求められることが予想されます。そのような観点から、積極的な取り組みを行っている薬局の現状を把握し、公表や情報共有していくことで、薬局業務に対するより多くの国民の理解の推進を図るだけでなく、新たな取り組みを進めようとしている薬局の一助になると考えています。。

そこで、東京薬科大学薬学部社会薬学研究室では、東京都にある薬局を対象とした3つの調査（調査1～3）及び全国の薬局を対象として1つの調査（調査4）を今年度中に実施を予定しております。

調査1：地域薬局における漢方薬等の利活用に関する調査（資料1-1, 1-2; 2022年11月半ばより調査開始）

調査2：セルフケア・セルフメディケーション推進に向けた薬局機能および取組等に関する調査（資料2-1, 2-2; 2023年1月半ばより調査開始予定）

調査3：保険薬局と他の医療施設との薬薬連携の実態等に関する調査（資料3-1, 3-2; 2023年2月初旬より調査開始予定）

調査4：抗がん剤の外来処方箋についての病院との連携等に関する調査（資料4-1, 4-2; 2023年1月半ばより調査開始予定）

調査票等は、調査1～3については東京都薬局機能情報提供システム(t-薬局いんふお)から、調査4については（公社）日本薬剤師会及び（一社）日本保険薬局協会からご推薦いただいた薬局から各調査約1,000店舗を無作為化抽出した後に郵送（資料5-1, 5-2）させていただきます。

アンケートは無記名で行い、回答された個人は特定されません。また、アンケートへの参加・不参加は、貴方様の自由意志で決めることができます。

また、本調査に参加し、アンケート調査票の回答及びご連絡先をご提出していただくと、後日、QUOカード500円分を御礼として送付させていただきます。

本調査の結果は、来年度中には薬剤師関連学会において報告すると共に速やかに貴会に送らせていただきます。

つきましては、本調査が円滑に実施できますよう、貴会会員薬局へアンケートをご回答いただきますよう、ご周知の程よろしくお願い申し上げます。

何とぞ、ご厚情とご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

敬具

# 地域薬局における漢方薬等の利活用に関する調査

## 《ご協力のお願い》



この度、2022年11月より実施する「地域薬局における漢方薬等の利活用に関する調査」の対象として、貴薬局が選ばれることをご案内するとともに、調査概要および調査の流れ等をご説明させていただくための資料です。

### 調査概要

#### 実施団体およびアンケート調査の背景(課題)・目的

- 東京薬科大学薬学部 社会薬学研究室は、地域薬局および薬剤師の取組や活動を応援するために、調査研究を実施しています。
- 主な目的は、地域薬局機能を含む漢方薬等の利活用状況を調べることです。本調査の結果は、地域薬局におけるセルフケアプロモーションを考える上での大重要な基礎資料となります。
- アンケートは無記名で行い、回答された個人は特定されません。また、アンケートへの参加・不参加は、貴方様の自由意志で決めることができます。
- お忙しいところ、大変恐縮ではございますが、調査の趣旨と目的をご理解いただき、アンケート調査へのご協力を願いいたします。

### 実施団体

東京薬科大学 薬学部 社会薬学研究室  
東京都八王子市堀之内1432-1 (担当: 山田)



# 本調査へ参加される前に必ずお読みください

## 調査対象に選定された理由

本研究を実施するために東京都薬局機能情報提供システム(t-薬局いんふお)より、「薬局サービスでさがす」という項目中にあります、相談に対する対応(服薬等に関する相談(お薬相談))の箇所で、「漢方相談」の対応可および対応不可に該当する薬局から、それをランダム抽出し、調査対象として選定致しました。

## 研究への参加と撤回

本研究の趣旨をご理解いただきご参加いただければと思いますが、参加するかどうかはご自身で決定してください。説明を読んでお断りいただくこともできますので、研究の辞退については、研究責任者にお電話或いはメールにてお知らせください。お断りになったり、一度参加を決めてから途中で辞退されることになったりしても、何ら不利益を被ることはありません。また、アンケート回答の終了後、いつでも参加を辞めることもできます。その際には、それまでに収集したデータを分析対象としてよいのか、廃棄を希望されるのかをお聞かせいただければ、それに従ってデータを取り扱います。

## 研究に協力することにより期待される利益

本調査結果は、薬局における漢方薬(医療用/一般用漢方製剤、漢方・薬局製剤等)の活用により、地域に暮らす需要者のセルフケアにつながる手段の一つとして、セルフケアプロモーション推進に関する基礎データとして、期待されます。

また本調査に参加し、アンケート調査票の回答をご提出していただくと、後日、実施団体より、QUOカード500円分を謝礼としてお送りいたします。

## 研究参加に伴う安全性の確保

本調査の参加には、何ら身体的な危険は伴いません。しかし、アンケート回答を進めるなかで回答したくないことが質問された場合は、無理に回答いただかなくて結構です。また、アンケート回答を中断または中止された方は研究を辞退していただくことになりますが、改めてアンケート調査に参加いただける場合は、研究責任者にお伝えください。

## 守秘および個人情報、研究データの取り扱い

本研究調査で得られた回答データを、研究目的以外に用いることはなく、守秘を守ります。また個人情報を保護するため、回答する方のお名前や個人を特定できるような個人情報は研究データから取り除き、個人が一切特定されない形にして、研究責任者の責任下にて研究のため5年間保管します。なお、5年経過後には同意書を含む全てのデータを廃棄します。

## 研究に関する資金源

本研究は、興和株式会社からのセルフケア推進に関する調査研究のための受託研究資金により実施します。

# 調査の流れ

(アンケートのご回答は、2022年12月20日までにご返送ください)

①

## 調査のご案内

ご郵送物をご確認ください。

送付物：①本資料、②調査表（アンケート冊子）、③同意撤回書、④返信用封筒

②

## 調査説明

同封内の「地域薬局における漢方薬等の利活用に関する調査」の研究の説明文書をご参照ください。

③

## アンケートに ご回答（任意）

お時間のある時に、アンケートにご回答ください。  
(回答は、全20問 10分程度を想定しています)

④

## アンケートの ご回答

ご提出の方法は、最寄りのポストへご投函ください。

※ご回答の終了後、必ず返信用封筒の中にアンケートを封入してください。  
※調査期間中に、お手数ですがご提出をお願い致します。

⑤

## アンケートの 集計・取り纏め

東京薬科大学薬学部社会薬学研究室で行います。

# 研究の倫理審査および研究成果の公表

本研究は、東京薬科大学における「人を対象とする医学・薬学並びに生命科学系研究」に関する倫理審査委員会の承認を得ています。（人医-2022-017）

アンケートの調査結果は、学術雑誌または学会等で発表する予定です。

また、東京薬科大学薬学部社会薬学研究室ホームページで公開いたします。

閲覧URL : <https://toyaku-shakaiyakugaku.jp>





本研究についてご不明な点がありましたら、いつでも遠慮なく研究責任者におたずねください。

お問合せ先

東京薬科大学薬学部社会薬学研究室

研究責任者：山田哲也

042-676-1590 / [tyamada@toyaku.ac.jp](mailto:tyamada@toyaku.ac.jp)